

FM



特 許 願

昭和50年11月4日

特許庁長官 小 田 島 平 吉

1. 発明の名称 イヤジコフイ
防臭装置
2. 発明者
氏 名 フナリ合資会社—ジャーゴ (株) スプリングフィールド
シールドビルズアベニュー144
住 所 ソール・エス・コーンビルム (114-1 5)
3. 特許出願人
氏 名 スイス・レーベル (株) (スイス)
氏 名 フンド・アタエンゲルゼン (株)
(氏名)
代 理 人 山 元
氏 名 スイス
4. 代 理 人 〒101
氏 名 東京都港区赤坂1丁目9番15号
日本特許委員会
氏 名 東京都港区赤坂1丁目9番15号
電 話 545-1234

⑨ 日本国特許庁

公開特許公報

⑩特開昭 52-57315
⑪公開日 昭52.(1977) 5.11
⑫特願昭 50-13538
⑬出願日 昭50.(1975) 11.4
⑭審査請求 未請求 (全6頁)

庁内整理番号

7057 44

⑮日本分類
30 C43

⑯ Int. Cl.
A61K 9/22

⑰別記特

BEST AVAILABLE COPY

1. (発明の名称)
防 臭 装 置
2. (発明の要旨)
ポリエチレングリコール中のグリセオフルビン
の固状分を主成分として下記組成の
1.8-リグロンの変異体としたポリビニルポリ
エリドリン (PVP) を含むことを特徴とする
組成物。
3. (発明の非均質性)
本発明は組成物に關する。更に詳しくは、
本発明はグリセオフルビン/ポリエチレングリ
コールを含んで成る組成物に關する。
グリセオフルビンは食品の形で使用するので
がましい組成物である。しかしながら、この

組成物は水溶性がなく、溶解速度が遅い。しか
るにこれは食品中の水分を示すことである。
グリセオフルビンの粒径を小さくする(溶解速
度)と溶解速度が速く成るが、そしてこ
の溶解速度が食品上に利用されている。
ポリエチレングリコール中のグリセオフルビンの
固状分がグリセオフルビンの溶解速度よりも
速く溶解し、食品中の水分を示すこと、また食品で
ある。しかしながら、グリセオフルビン・ポリエチ
レングリコール (GPG) の固状分を主
成分とした場合、溶解速度にける多くの改善
がえられる。同様に成る組成物を主成分と
する。ポリエチレングリコールの溶解速度が
よって食品に適合する。水溶性組成物ではその溶解
力に成る組成物中の水分の含有率が低い

009660679

WPI Acc No: 93-354230/199345

XRAM Acc No: C93-157125

XRPX Acc No: N93-273204

Electronic photograph machine and facsimile machine - with electronic
photograph sensitive body where preventive film on conductive holder
includes fluoride resin graphite NoAbstract

Patent Assignee: CANON KK (CANO)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No Kind Date Applicat No Kind Date Main IPC Week

JP 5257315 A 19931008 JP 9286115 A 19920310.G03G-005/147 199345 B